

2017年1月8日

## 福音書からのメッセージ

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。（マタイによる福音書3章16節）

イエス様は何のために、この地に遣わされたのでしょうか。どうして神の子が、わたしたちの間に生まれる必要があったのでしょうか。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」。天からの神さまの声が、洗礼を受けたばかりのイエス様に向かって掛けられます。イエス様の洗礼は、神さまのみ心でした。

イエス様は罪深い者ではないのに、洗礼者ヨハネから洗礼を受けるのはおかしいと思う方もおられるのではないかと思います。しかしこのイエス様の洗礼の記事は、イエス様とは何者なのかを語るときにどうしても外せないものです。

イエス様の洗礼の場面を、少しだけ想像してみたいと思います。よく絵画などであるように、イエス様と洗礼者ヨハネが会話をしながら、二人だけである場面を思い浮かべてしまうかもしれません。しかし実際はどうだったのでしょうか。

洗礼者ヨハネの元にはエルサレムとユダヤ全土から、そしてヨルダン川沿いの地方一体から人々がやって来ました。決して二人だけの静かな中で、イエス様の洗礼が行われたわけではありませんでした。ヨハネの元で罪を告白し、洗礼を受けるために集まった大勢の人々の中に、イエス様は来られたのです。

イエス様が来たからといって、人々が列を開けてくれるわけではありません。前の人に続いて、イエス様もゆっくりと進んでいきます。人々が必死に罪を告白している姿を見ながら、同じ歩幅で歩まれる、それ



がイエス様なのです。

右を向くと、神さまに何とかしてほしいと叫ぶ人の姿があります。左を向くと、どうしても神さまに従えない自分の弱さに気づき、泣いている人がいます。前

にも、そして後ろにも、自分の力だけでは生きられない、神さまの憐みを求めてやってくる人たちがいます。その真ん中に、イエス様は来てくださったのです。そして洗礼を受けられました。罪人と呼ばれる人たちの真ん中に立ち、共に歩まれるために。

わたしたちは白く輝く、きれいな人間でしょうか。一点の曇りもない、清い者でしょうか。そうではないですよ。わたしたちの心は、悲しいけれども薄汚く汚れています。どんなに洗ったつもりでも、どうしてもきれいにならない、それがわたしたち人間なのです。イエス様はその間に来てくれました。ドロドロに汚れたわたしたちの間に立たれたのです。そしてわたしたちと同じように汚れ、わたしたちと同じ歩幅で歩んでくださる。それがイエス様の洗礼の意味なのです。わたしたちを決して一人にしない。そのためにイエス様は来てくださいました。

イエス様はわたしたちの間にいてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>